



プレスリリース

平成 26 年 8 月 21 日
独立行政法人国立科学博物館

国立科学博物館 × 吉本興業「笑楽校」 「なんで？ゼミ」開催の御案内

国立科学博物館(館長 林 良博)において、来る9月14日(日)に吉本興業「笑楽校(しょうがっこう)」がコラボして「なんで？ゼミ」を開催します。

「なんで？ゼミ」では、小学生を対象に当館の研究者と株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属の芸人が先生になり、皆さんが考える「なんで？」を楽しく、そして分かりやすく解決することで、子供たちが感動し新たな知識を得て、想像力を向上することを目的とし、ワークショップも交えた楽しい授業を開催します。

つきましては、取材・記事の掲載など本企画の広報に関して特段のご支援・御協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

- 【開催日時】 平成 26 年 9 月 14 日 (日)
【場 所】 国立科学博物館 日本館 2 階 講堂
【内 容】 なんでゼミ① 13:00~14:00
ガレッジセール川田先生&中江研究員の「魚のなんで？」
なんでゼミ② 15:00~16:00
あべこうじ先生&奥山研究員の「花と虫のなんで？」

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

事業推進部広報・常設展示課 広報担当：吉野千津

TEL:03-5814-9855

E-mail: shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

な ん で ? ゼ ミ

国立科学博物館と、吉本興業の「笑楽校」プロジェクトが、このたび「なんで？ゼミ」を発足しました。「笑楽校」プロジェクトとは、吉本興業が東京学芸大学の力を借りて立ち上げた、「面白いことを通して、明るく元気な子を育てる」プロジェクトです。「なんで？ゼミ」では、誰しもが思うさまざまな「なんで？」を国立科学博物館の「科学の力」と笑楽校の「笑って楽しめる授業力」を組み合わせ解決していくゼミです。「なんで？」を楽しく、分かりやすく解決することで、子供たちが感動し新たな知識を得て、想像力を向上させます。

なんでゼミ① 13:00～14:00
ガレッジセール川田先生 & 中江研究員の
「魚のなんで？」



芸人一の魚好き
ガレッジセール 川田



魚のスペシャリスト
中江 雅典 研究員
(国立科学博物館動物研究部)

なんでゼミ② 15:00～16:00
あべこうじ先生 & 奥山研究員の
「花と虫のなんで？」



芸人一の昆虫好き
あべこうじ



花と虫のスペシャリスト
奥山 雄大 研究員
(国立科学博物館植物研究部)

日時	平成26年9月14日(日)
場所	国立科学博物館 日本館2階 講堂
対象	小学1年生～小学6年生
定員	各回 40名 (ただし、応募者多数の場合は抽選) ※保護者の方は、後方のお席で観覧可能です。ただし、お子様お一人につき、一名様までとさせていただきますので、予めご了承ください。
参加料	無料 (ただし、保護者の方については入館料が必要です。一般・大学生620円、高校生以下無料)
申込み	▼下記URLよりお申し込みください。 ※平成26年8月31日(日)締切 http://www.kahaku.go.jp/event/all.php?date=20140914
問い合わせ	国立科学博物館事業推進部連携協力課 E-mail: renkyo@kahaku.go.jp / TEL: 03-5814-9865または9863

国立科学博物館 植物研究部
 多様性解析・保全グループ 研究員
 (兼) 筑波実験植物園研究員
 奥山 雄大 (おくやま ゆうだい)



■ 研究内容は、日本固有の植物、特にチャルメルソウ類やカンアオイ類がいか
 にして現在のように多様な姿となったのかを明らかにするため分子分類学、
 分子遺伝学、生態学を駆使して研究しています。また、まだまだ分からない
 ことが多い花と昆虫との関係の解明も進めています。

■ 展示関係では、筑波実験植物園で5月に開催した企画展「日本固有の植物
 展」や8月に実施したイベント「夏休み植物園フェスタ」を担当しました。

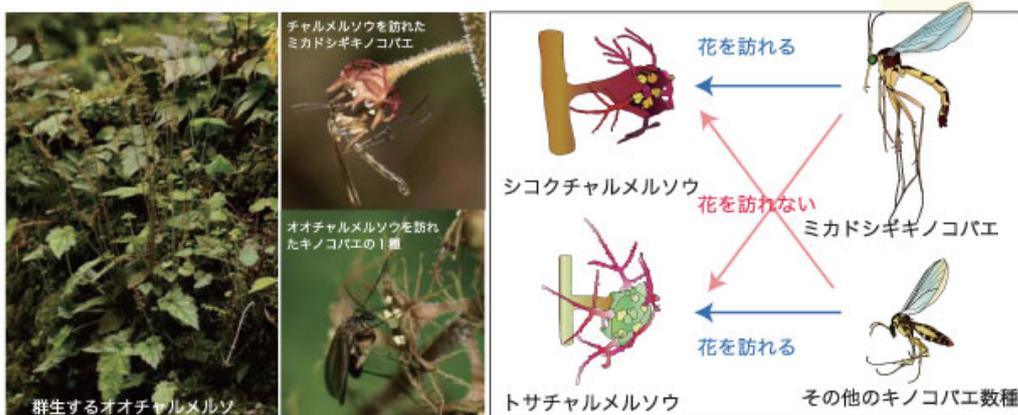
■ 著書：

川北篤・奥山雄大 種間関係の生物学：共生・寄生・捕食の新しい姿 文一総
 合出版 400p

マデリン・ハーレー・ロブ・ケスラー (著)、奥山 雄大 (監修)、武井 摩利 (翻
 訳) 世界で一番美しい花粉図鑑 創元社 264p

ロブ・ケスラー・ヴォルフガング・シュトゥッピー (著)、奥山 雄大 (監修)、
 武井 摩利 (翻訳) 世界で一番美しい種子図鑑 創元社 264p

加藤雅啓・海老原淳 (編集)、奥山雄大、他 (分担執筆) 日本の固有植物 (国
 立科学博物館叢書) 503p など。



国立科学博物館 動物研究部
脊椎動物研究グループ 研究員
中江 雅典 (なかえ まさのり)



■ 魚類は脊椎動物のなかでもっとも種数が多く、極地や深海、陸上などの様々な環境に適応しています。その進化の謎や環境への適応の仕方を形態学の面から研究しています。私は特殊な染色液や顕微鏡、精密手術器具からペンチまで用いて、メダカのような小型魚類からマンボウやクロマグロのような大型魚類まで研究しています。

■ 著書：中江雅典・佐々木邦夫，2010. 第1章 概説 13：感覚器. 新魚類解剖図鑑（木村清志，監修），緑書房. pp. 66-69, 70.

中江雅典・佐々木邦夫，2010. 第1章 概説 11：神経系. 新魚類解剖図鑑（木村清志，監修），緑書房. pp. 58-59, 70.

中江雅典・佐々木邦夫，2010. 第1章 概説 9：筋肉系. 新魚類解剖図鑑（木村清志，監修），緑書房. pp. 44-45, 70.

